



最優秀賞

Office of Takumi Iwasawa/AUFTAKT

岩澤 拓海

関本哲也建築設計事務所

関本 哲也

【作品名】

新雑賀町の長屋/
サニーグレイス

設計	Office of Takumi Iwasawa/AUFTAKT・関本哲也建築設計事務所
施工	株式会社 豊洋
竣工日	2020年3月15日

建物概要

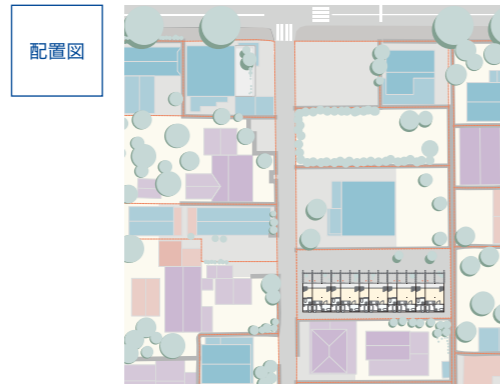
建設地	島根県松江市	延床面積	298.12㎡
敷地面積	396.26㎡	構造・規模	木造2階建(10戸)

設備面の特記

厨房機器	IHクッキングヒーター
給湯機器	ガス給湯器
冷暖房機器	エアコン



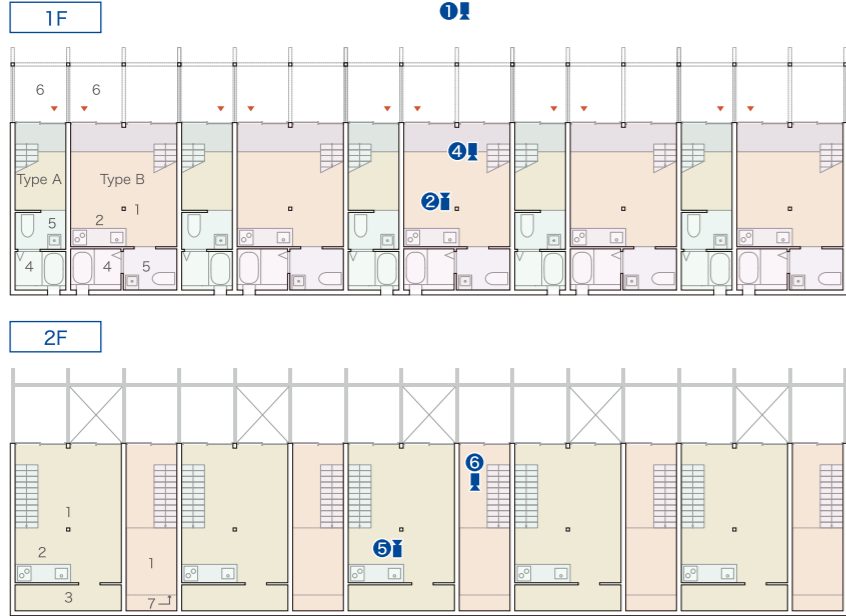
写真撮影 / 中村 絵



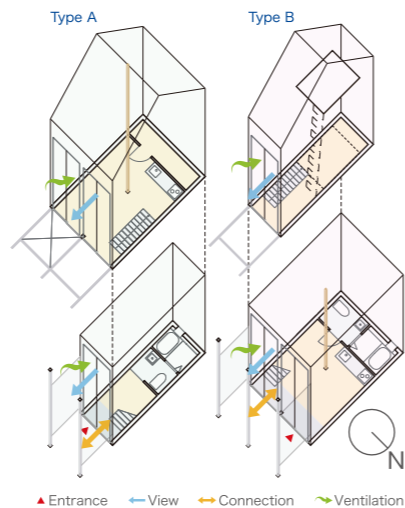
配置図

3

平面図



ダイアグラム



設計コンセプト

松江駅からほど近い、古くからの町割りが残る地域に建つ木造2階建10戸の長屋形式の賃貸住宅。木造賃貸長屋の新しいあり方をめざした。

周辺は静かな住宅地である一方、狭隘な前面道路にかかる法令上の制限から共同住宅の建設が不可能な土地が多く、戸建て住宅・賃貸アパートによる建替えや、敷地分割された土地、歯抜け状になった土地も散見される。

敷地は、間口が狭く奥行きが長いため、西側に玄関、東側に開口・ベランダを並べる商品化された賃貸住宅では、画一的な生活と周辺との断絶・閉鎖性を生む恐れがあった。

本件は、各住戸が外部空間に開くテラスを持ち、1階が一間、2階が二間分の間口を持つものと、上下階の間口が反転した2タイプの

住戸からなる。内部は、1階、2階と高さや広さの異なる空間が連なり、内外の多様な居場所を使い分けることで、住まいと働く場所とを兼ねた使い方や、アトリエや小さなお店をあわせた住まい方も受け止められるのではと考えた。

多くの人が一度は住まうであろう規模の住宅だからこそ、多様な住まい手の生活を受け止め、明るく開かれた場所を介して、町と住まいと住まい手を縫い合わせる試みがこの場所での答えの一つとなり、ひいては新たな住まいのあり方を提示できるのではないかと考えた。

審査委員講評

二つのタイプから構成される各住戸の間取りと、軽快な構造によって豊かな住空間を実現しています。コロナ禍においてこの住まいに付属されているセミパブリックなテラスは居室との一体的なスペースとして有効に働くと共に、各住戸の個性が溢れ出る事により、従来の木造賃貸長屋とは一線を画す環境を作り出すことが楽しみな意欲的作品です。

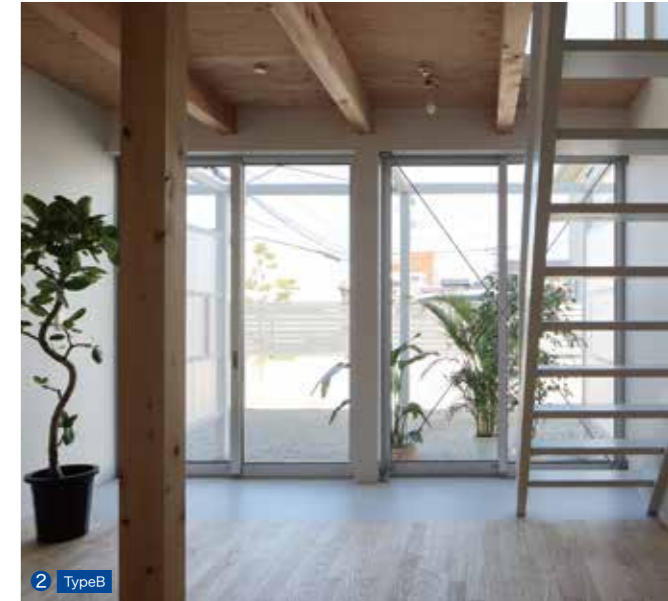
断面図



植物や屋外用家具で人を招き入れる設えをしたり、オーニングや屋外用カーテンで仕切ることができたり、住まい手が生活の場を上げられるとともに、内部と外部・周辺への開き方やつながり方を自由に調整することも可能である。



1 90mm角の柱、梁、ポリカーボネートの袖壁で縁取られるテラス。内外の架構が連続する。



2 TypeBの1階から東側屋外を見る。長屋の境界壁とテラスの袖壁が連続。



3

3 周辺より低く細長い切妻のポリウムを西側に寄せ配置することで、前面道路を引き込んだゆりのある外部空間を東側に生みだしている。

4 TypeBの1階。右手がキッチン、左手が2階に上がる階段。正面扉は洗面・バスルームにつながる。柱・梁をあらわしにすることで開放性を生み出している。

5 TypeAの2階から東側屋外を見る。2階天井高は約3.5mとし、空間の気積を最大化し開放的な生活を楽しめるようにしている。

6 TypeBでは上部に一部ロフトを設けることで、収納等のスペースとしている。TypeA、Bの各住戸で一部嵌合する部分があるため、床下地を二重張りとし住戸間の遮音に配慮している。



4 TypeB



5 TypeA



6 TypeB